

# 駅猫 J 君が保護されるまで

2015年5月22日「以前から高崎駅で見かける猫がケガをしている。左手が血だらけで折れ曲がったままの状態なので、保護して治療したい。協力してもらえないか。」という内容のメールが届きました。

ボランティアがペDESTリアンデッキ内を確認し、治療の必要があると判断し捕獲器を設置しました。

後日捕獲器を確認すると、猫には外すことが不可能な出口部分のフックが外されて、蓋が捕獲器の近くに立てかけてありました。何者かが掛かった猫を逃がしたと思われます。

捕獲器で保護出来れば傷が悪化することもなく、すぐ治療に入ることが出来ました。断脚する必要もなかったと思われます。

8月にはケガから大量の出血を確認したため、JRに直談判し捕獲の許可を頂きました。

警察の協力も得ながら捕獲を試みるも、現場を誰よりも知り尽くしているJ君は色々な逃げ穴から姿を隠し、簡単に捕まえることは出来ませんでした。

ケガの悪化を心配する人が多い中、J君を見てきた一部の人たちからは

- ・猫を捕獲することは許さない
- ・このままで良い
- ・捕獲するために追いかけて猫が死んだら人殺しで訴える
- ・猫は自分たちが世話をできて怪我は治ってきている
- ・出入り口を塞いでいるものをすぐに撤去するように！
- ・ケガをしながらものんびりと生活し、たくさんの人に声を掛けられて愛されていたのに、捕獲が原因で死を早めたとすればとても残酷なことをしました。

といった内容の抗議メールや手紙が届き、駅には張り紙がされました。

私どもとしてもJ君の事を第一に考え、今後のことをJR・群馬わんにゃんネットワーク・餌を与えている人の三者できちんと話し合いを持ちたいと再三呼びかけましたが、そう言うと、「自分は関係ない」と一切話し合いに応じて頂けませんでした。

公共の場での無責任な餌やりであることをしっかり認識して、猫のために何が出来るか、どうして行くべきかを関係各部署としっかり話し合いを持ってない中での捕獲妨害行為について疑問を感じました。

【ご心配して下さった方々へ】

たくさんの皆様にご心配いただきました駅猫を無事に保護することが出来ました。

手術も滞りなく無事に終わりましたのでご報告します。

腕の怪我は私たちが予想したよりかなり悪い状態で、目を覆いたくなるようなひどい傷になっていました。

骨折は人間で言う手首の部分だけでしたが、歩くたびに折れた部分を床に着いて歩くためその部分の関節は潰れ、傷が広がって肉が広範囲に渡り露出していました。更にその上の肘の部分は、怪我はありませんでしたが長い間使わないことによって関節が固まってしまい伸びなくなっていました。相当の痛みをずっと耐えて来たと思われます。怪我をしてすぐに保護できていれば手首の骨折の治療だけで済んでいたと思いますが、かなりの日にちが経ってしまったため大手術となりましたが頑張ってくれました。人間の食べ物を与えられていたため貧血がひどい状態ですが、それも適切な治療によって快復に向かっています。現在は保護宅に移動し、落ち着いて過ごしています。

私たちは彼を「J（ジェイ）」と名付けました。これまでJを見守り応援して下さった皆様、Jの幸せへの第一歩は始まったばかりです。今後体調の回復を待ち、ゆっくり新しい家族を探していきたいと思っています。

またご報告して参ります。